特　集

小樽スキー連盟創立100周年 記念式典・祝賀会を挙行

平成25年９月７日（土）、小樽スキー連盟が創立100周年を迎え、この日、小樽市内のホテル「グランドパーク小樽」において記念式典・祝賀会が盛大に行われました。

式　典　風　景

小樽スキー連盟は、大正２年３月31日創立という日本最古の連盟であるが、創立のきっかけとなったのは、あのスキーの祖といわれる「レルヒ中佐」であると言うところが他の連盟とはちょっと異なるところである。

明治45年７月、レルヒ中佐が旭川から樺太への旅行途中に小樽を訪れ、その際に「小樽にスキー倶楽部の出来ることを切に願う」というメッセージを残し、小樽を去ったといわれている。これを受けて、当時の小樽にスキー術伝来のきっかけを作った小樽商業高等学校（後の小樽商大）校長であった渡辺龍聖（商大初代校長）や苫米地講師（商大三代目校長）らが倶楽部創立に向け奔走し、大正２年３月に発足、今年100周年を迎えることになったのである。

式典には、全道各地から来樽した15地区連、市内の体協関係者等180人を超える参加者が集い盛大な式典・祝賀会となりました。

13時30分から始まった式典は、小樽スキー連盟小鷹理事長の司会進行でスタート。

伊藤（啓）副会長の開会の言葉のあと全員で物故会員に黙祷を行い、青山会長の式辞では、創立からの歴史とこれまで連盟に拘わってきた先人達と関係者にお礼と感謝の言葉が述べられました。

司会　小鷹理事長

来賓祝辞では、道連伊藤会長に代わって上杉専務理事が祝辞を述べ、続いて小樽市議会議長、そして小林道連副会長が教育部の立場から、柴田先生はじめ小樽のお世話になった大先輩の方々へ謝辞を述べ、式典は功労者表彰式へと移りました。司会者から来賓とOS紹介があり、

上杉専務理事

小林副会長